1 通信教育の概要

❶ 目　　的

本通信教育は、主として知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員の養成を行うことを目的としています。

❷ 受講資格

受講資格は、次のいずれかに該当することが必要です。

（1）学校教育法に基づく大学・短期大学卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。

（2）学校教育法に基づく専修学校の専門課程【修業年限2年以上のものに限る】（専門学校）卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で1年以上その業務に従事した者。

（3）学校教育法に基づく高等学校卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。

（4）学校教育法に基づく専修学校の高等課程（高等専修学校）卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。

（5）本会が実施する「知的障害を理解するための基礎講座」修了者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で2年以上その業務に従事した者。

（6）知的障害援助専門員養成通信教育（平成12年度以降）を受講した者で、未修了の者。

※実務経験については、2027年３月31日現在で定められた年数を満たしていなければなりません。
※人材育成・研修委員会が定める実務経験については、16ページを参照してください。
※非常勤職員は、下記の条件をすべて満たしている場合に実務経験として該当します。
A. 正職員と比べて３/４以上勤務している。　B. 施設長もしくは法人理事長の証明がある者。

❸ 定　　員

450名

❹ 募集期間

2026年11月1日～2027年2月末日（定員になり次第締め切り）

❺ 受講期間

2027年4月1日～2028年3月31日

❻ 受 講 料（一度納入された受講料は返金できません）

受講料 （上記**2.受講資格**の（1）～（5）に対応）	会員施設職員 一　　般	66,000円（本体60,000＋税6,000円） 69,300円（本体63,000＋税6,300円）
再受講料 （上記**2.受講資格**の（6）に対応）	会員施設職員 一　　般	52,800円（本体48,000＋税4,800円） 56,100円（本体51,000＋税5,100円）

※受講料には、テキスト代およびスクーリング受講料が含まれます。
※再受講料には、テキスト代は含まれません（スクーリング受講料は含まれます）。

2 受講内容等

1 教 科 目

①知的障害者福祉総論
②知的障害者援助技術
③事例研究
④知的障害を伴う自閉症スペクトラム
⑤知的障害者の心理
⑥知的障害者の医療
⑦知的障害者の生活支援
⑧障害福祉事業のマネジメント
⑨知的障害の併存症（重複障害）

2 履修内容

①自宅学習

・本講座専用のテキスト（９科目）を用いて学習します。
・科目ごとに指定課題に沿ってレポートを作成し、所定の期日までに提出します。
・レポートは、１科目につき原稿用紙５枚（1800 ～ 2000字）です。
・レポートには講師の評価・講評を付して返却します。

※生成系AI等に指示し作成したレポートを、自身のレポートとして提出することは認められません。

②スクーリング

●スクーリングの内容について

・９科目の講義および各教科のテストを実施します。
・学識経験者や各分野のスペシャリストが講義を行います。

●実施方法について

・インターネットを使用した、オンデマンドによる講義視聴およびオンラインによるテストを実施します。（インターネット接続ができない場合は、通信教育の受講ができません。DVDの用意はありません。）

再受講について

再受講は30 ～ 56期の受講生で、修了判定で「未修了」となった方が対象です。

なお、再受講では新たに、全科目の「レポート提出」「スクーリングへの出席」「受験」が必要となります。

再受講料には、テキスト代は含まれません。受講の際は以前に購入されたテキストを使用してください。なお、希望者は最新テキストを１冊あたり1,100円（税込み）で購入することができます。

3 修了判定

レポートの評価、講義動画の視聴およびオンラインテストの成績により総合的に行います。

修了判定を受けるためには、全科目の「レポート提出」「スクーリング講義動画の視聴」「オンラインテストの受験」が必要です。

■学習計画（予定）

学習期間	学習教科（レポート提出教科）	学習期間	学習教科（レポート提出教科）
4/1～4/10	準備期間（教材到着）	8/11～10/10	⑥知的障害者の医療 ⑦知的障害者の生活支援
4/11～6/10	①知的障害者福祉総論 ②知的障害者援助技術		
6/11～8/10	③事例研究 ④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム ⑤知的障害者の心理	10/11～12/10	⑧障害福祉事業のマネジメント ⑨知的障害の併存症（重複障害）

・レポートの提出期限は、あらかじめ日程が決まっています。
・レポートの評価は、各科目担当講師が行います。

■スクーリング実施予定

●実施期間

2027年12月中旬～ 2028年 1 月下旬（予定）

●実施方法

・インターネットを使用した、オンデマンドによる講義視聴およびオンラインによるテストを実施します。（インターネット接続ができない場合は、通信教育の受講はできません。講義DVDの用意はありません。）

●実施内容

・ 9 科目の講義および各教科のテストを実施します。
・学識経験者や各分野のスペシャリストが講義を行います。

●その他

・インターネット環境の整備について

講義動画の視聴や、テストを受験する際、パソコン、タブレット、スマートフォン等のインターネットに接続できる機器が必要となります。講義動画の視聴には多くのデータ通信量を消費するため、通信料無制限のプランにする等、インターネット環境を整備されることをお勧めいたします。

※インターネット機器については、パソコンを推奨します。

■57期生講師一覧（予定）

科　目　名	講　師　名
①知的障害者福祉総論	谷口　　泰司（関西福祉大学） 矢野　　明宏（東京通信大学）
②知的障害者援助技術	白石　　孝之（社会福祉法人彩明会） 鈴木　　良（同志社大学） 矢島　　雅子（京都ノートルダム女子大学）
③事例研究	漆嶋　　真一（社会福祉法人なにわの里） 長澤　　正樹（新潟大学名誉教授）
④知的障害を伴う 自閉症スペクトラム	田熊　　立（千葉県発達障害者支援センターCAS） 中野　伊知郎（社会福祉法人侑愛会）
⑤知的障害者の心理	飯田　　昭人（北翔大学） 福島　寿美子（たすく株式会社）
⑥知的障害者の医療	鴨下　　加代（安田女子大学） 土路生　明美（県立広島大学）
⑦知的障害者の生活支援	金丸　　博一（コンサルテーションサポート森の入り口） 佐野　　和明（社会福祉法人愛育会） 松永　千恵子（群馬医療福祉大学）
⑧障害福祉事業のマネジメント	榎本　　則幸（東京通信大学） 鈴木　　繁生（社会福祉法人みどりのかぜ）
⑨知的障害の併存症（重複障害）	池上　　陽子（社会福祉法人日本心身障害児協会） 豊田　　隆茂（社会福祉法人日本心身障害児協会） 野村　　万季（相模原市立陽光園）

（50音順）

修了生からのメッセージ

埼玉県／社会福祉法人平野の里　あやめ寮　　廣田　結衣

大学時代は外国語を専攻していたため、福祉に関する知識は支援員として働く中で培ってきました。現場に出て３年目を迎えた頃、日々の利用者との関わりの中で、より良い支援を提供するために確かな知識を身に付けたいと考えるようになりました。そうした折、上司から本通信教育を勧められ、現在の自分に必要な学びであると感じ、受講を決意しました。

学習にあたっては、自分のスタイルに合わせた工夫を意識しました。レポートを作成する際には、いきなり書き始めるのではなく、まずテーマを設定し、日頃から参考になりそうな資料や記事に目を向け、気になった点はこまめにメモするように心がけました。作成時にはそれらを整理・取捨選択することで、テーマから逸れることなく内容を深めることができたと感じています。作成に難しさを感じた際には、通信教育のホームページに載っている過去の優秀レポートを参考にするようにしました。また、通勤時間を利用して、オンデマンド動画によるスクーリング講義を繰り返し視聴することで、無理なく自分のペースで学習に取り組むことができました。オンラインテスト対策は、過去問を繰り返し解き、理解が不十分な箇所はテキストを見返すことで、理解につながったと感じています。

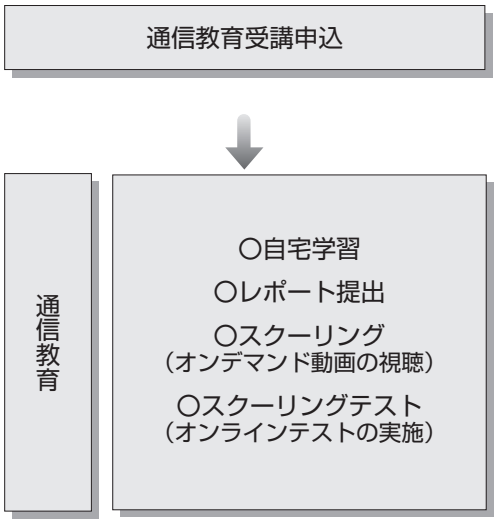
この一年間の学びを通して良かったと感じている点は、支援に関する知識を深めるだけでなく、これまでの支援を振り返ることができた点です。かつては理由が分からなかった利用者の行動についても、「あの時はこういう思いを伝えようとしていたのかもしれない」と理解できる場面がありました。このように、知識と現場経験が結びつくことで、利用者への関わり方に変化が生まれたと感じています。また、講師の方からいただいた丁寧な講評も、自分の支援を客観的に見つめ直す貴重な機会となりました。仕事と両立しながらの学習は容易ではありませんが、その分得られる学びは多いと感じています。これから受講される皆様にとっては、日々の業務で忙しい中でも、無理のないペースで継続することが鍵になると思います。知識を増やすことは、仕事の楽しさややりがいにもつながると感じています。本通信教育は、そうした知識を学びながら、現場での実践につなげていく上で有意義な機会になると思います。皆さまの学習が実りあるものになることを心より願っております。

（令和８年度通信教育ニュースより）

3 資格の付与について

本通信教育修了者には「知的障害援助専門員」の資格が与えられます。

■資格認定への過程



受講資格

・学校教育法に基づく大学・短期大学・専修学校の専門課程（専門学校）卒業者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で１年以上その業務に従事した方。

・学校教育法に基づく高等学校・専修学校の高等課程（各種学校）卒業者で人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で２年以上その業務に従事した方。

・本会が実施する「知的障害を理解するための基礎講座」の修了者で、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で２年以上その業務に従事した者。

（4頁の受講資格参照）

修了者には「知的障害援助専門員」資格を付与

認定講習会の受講資格

知的障害援助専門員の資格取得後、人材育成・研修委員会が定める施設・事業ならびに職種で２年以上その業務に従事した方。

合格者に「知的障害福祉士」資格を付与

知的障害援助専門員とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助にあたる専門職員として本協会が認定する資格。

知的障害福祉士とは

知的障害のある人が利用する障害者施設・事業所において知的障害児・者の支援・援助に係る計画の策定・調整等とともに、支援・援助にあたる職員に対して助言・指導等を行う専門職員として本協会が認定する資格。

4 申込手続き

❶ 募集期間

2026年11月１日～ 2027年２月末日（定員になり次第締め切り）

❷ 提出書類等

①**受講申込書**（19頁の所定用紙）

②**実務経験証明書**（21頁の所定用紙）

※再受講の方は提出の必要はありません。

③**承諾書**（23頁の所定用紙）

④**証明写真**（縦４cm×横３cm）**２枚**

⑤**受講許可通知返信用封筒**（定型郵便サイズの封筒（長形３号）に**110円切手を貼り**、ご自身の住所・氏名をご記入ください）

❸ 提出方法

上記①～③の提出書類に必要事項を記入し、④証明写真と⑤受講許可通知返信用封筒（長形３号）を、提出書類送付用封筒（角形２号）に必要送料分の切手を貼付けし郵送ください。

※本会ホームページより受講案内をダウンロードした場合は、「⑤受講許可通知返信用封筒（長形３号）」ならびに「提出書類送付用封筒（角形２号）」はご自身で用意ください。

❹ 受講の決定

提出書類の審査を行い、受講資格を満たしている方に受講手続き（受講許可証および郵便払込取扱票）のご案内をします。受講料の納付をもって受講の決定となります。

5 提出書類の記入要領

❶ 受講申込書

①受講申込書記入例（12頁・13頁）を参考にして必要事項をもれなく記入してください。氏名の欄に必ず押印してください。

②最終学歴は卒業した学校名、学部・学科名、卒業年月まで正確に記入してください。

③勤務先欄は現在の勤務先名を記入してください。

④施設・事業の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。なお、コードは17 ～ 18頁コード表を参照のうえ記入してください。

❷ 実務経験証明書

①受講申込時に必要な実務経験を実務経験証明書記入例（14頁・15頁）を参考に、必要事項をもれなく記入してください。

②施設（事業）の種類、および職種は16頁の表を参考にして記入してください。

③事業所の異動等により、実務経験証明書が複数になる場合には、必要枚数をコピーして記入してください。

④実務経験証明書の勤務期間を「見込み」として提出された方は、4月末までに証明書を再度提出していただきます。

⑤再受講の方は、実務経験証明書の提出は必要ありません。

❸ 承 諾 書

①通信教育を受講するにあたり、承諾書（23頁）を提出していただきます。

②承諾書の記載内容を確認したうえで、日付・住所・氏名の記入および押印をし、提出してください。

❹ 受講許可通知返信用封筒

返信用封筒（定型郵便サイズ【長形３号】）に**110円切手を貼り**、返送先の郵便番号、住所、氏名を記入してください。提出書類を本会ホームページよりダウンロードした場合は、返信用封筒（定型郵便サイズ【長形３号】）はご自身で用意ください。

❺ 証明写真

縦４cm×横３cmの**証明写真を２枚**用意してください。（無背景のもの）

①１枚は受講申込書の所定の位置に貼付してください。

②残りの１枚は裏面に都道府県名・氏名を記入し同封してください。（受講証用）